

成田・千葉ニュータウン業務核都市基本構想の概要

成田・千葉ニュータウン業務核都市基本構想策定の目的

成田地域及び千葉ニュータウン地域は、業務核都市として、首都圏における広域連携拠点としての役割を担うとともに、成田空港のポテンシャルを広域的に生かした国際交流拠点としての役割も期待されている。

そのため、多極分散型国土形成促進法(昭和63年)による支援措置を活用するなど、業務等諸機能の立地促進を図るため、「基本構想」を策定したものである。

基本構想の概要

- 1 構 想 名 成田・千葉ニュータウン業務核都市基本構想
- 2 業務核都市の名称 「成田・千葉ニュータウン業務核都市」
- 3 面 積 約23,647ha
- 4 対象市町村名 成田市、印西市、白井市(一部)、富里市(一部)、印旛村、本埜村(一部)の4市2村

5 将来像

成田地域と千葉ニュータウン地域が一体となり、成田空港における空港施設の整備と千葉ニュータウンにおける都市整備の進捗を踏まえつつ、空港のポテンシャルを広域的に活用し、首都圏における諸機能の適正配置に資する。

また、「グローバル=国際性」と「ラーバン=都市と田園の共生」という地域特性を生かして整備を進め、国際交流機能をはじめとして世界につながる各機能が展開される場として、これまで蓄積してきた資源を最大限に活用することにより、都市と田園の双方の特長を生かした快適な都市空間の形成を目指す。

6 整備の方針

成田・千葉ニュータウン地域については、都心と成田空港とを結ぶ、新たな鉄道アクセスルートとなる成田新高速鉄道や北千葉道路等の骨格的交通軸の整備促進を図りつつ、成田地域における国際交流機能や国際物流機能の展開、千葉ニュータウン地域における空港を生かした業務管理機能、先端的な研究開発機能や居住環境機能の一層の集積を進める。両地域が連携することで、首都圏における広域連携拠点としての役割を果たす。

7 業務施設集積地区及び中核的施設

業務施設集積地区	市町村名	面積 (ha)	整備の方針	中核的施設
成田空港周辺地区 成田空港ターミナルビルを中心として成田国際物流複合基地を含む地区	成田市	約 200ha	成田国際物流複合基地の整備により、周辺に立地する国際物流機能とのネットワークを形成し、国際的なロジスティクスセンターとして整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・成田空港旅客ターミナルビル（交通施設） ・成田国際物流複合基地（流通業務施設） ・成田新高速鉄道（交通施設）
成田都心地区 既に商業、業務機能の集積が見られる地区であり、隣接する富里市の一部を含めた地区	成田市 富里市	約 435ha	国際交流都市にふさわしい都市基盤等の整備を進める。また、空港周辺のホテル群や幕張新都心との連携等により国際交流拠点となる地域の形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・成田ケーブルテレビ（放送施設） ・（仮称）JR成田駅東口駅前再開発ビル内 公益施設（複合施設） ・成田新高速鉄道（交通施設）
千葉ニュータウン地区 【千葉ニュータウン中央駅圏】 【印西牧の原駅圏】 【印旛日本医大駅圏】 業務管理機能、研究開発機能、高等教育機関等の集積が進み、北総地域における中心性を高めつつある地区	印西市 白井市 印旛村	約 401ha	成田空港への近接性、先導的な都市基盤整備、優れた居住環境等を生かし、ヒューマン・インダストリー等に係る業務管理機能、研究開発機能等の集積を進める。	<p>【千葉ニュータウン中央駅圏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北総花の丘公園（レクリエーション施設） ・千葉ニュータウンケーブルテレビ（らーばんねっと）（放送施設） ・タウンセンター複合施設（教養文化施設） ・北総・公団線（交通施設） <p>【印西牧の原駅圏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）7駅複合施設（研修・会議場施設） ・ビッググループ（事業場施設） ・北総・公団線（交通施設） <p>【印旛日本医大駅圏】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいセンターいんば（複合施設） ・医科器械資料館（教養文化施設） ・北総・公団線（交通施設） ・成田新高速鉄道（交通施設）

8 配慮事項等

業務核都市の整備の推進上不可欠である公共施設等の整備を図るとともに、環境の保全、適正かつ合理的な土地利用、業務機能と居住機能の調和等に配慮する。